

ESA 製剤から HIF-PH 阻害薬 roxadustat への切り替えによる臨床評価

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

○赤峰太一 林田征俊 高木伴幸 林可奈子 山口貢正 河津多代 北村峰昭 澤瀬健次 橋口純一郎
原田孝司 船越哲

【背景】

HIF-PH 阻害薬は、HIF 経路を活性化し EPO 産生を増加させる経口腎性貧血治療薬である。

【目的】

epoetin- κ 注射液から roxadustat 錠へ切り替えを行い、貧血改善効果等を縦断的に検討する。

【対象・方法】

epoetin- κ 注 3000 μ g/週 3 回を投与されている慢性維持透析患者 90 名を roxadustat 錠 100mg/週 3 回へ切り替え、16 週目までの血液データを追跡した。

【結果】

roxadustat 錠へ変更後、4 週間で Hb 値は、 10.5 ± 0.9 g/dL から 10.8 ± 1.2 g/dL UIBC 値は、 222.4 ± 46.0 μ g/dL から 286.9 ± 61.8 μ g/dL ($p < 0.01$)と上昇し、L/H 比は、 1.79 ± 0.80 から 1.77 ± 1.10 と減少した。毒性等で脱落した症例を除き、16 週で 59 名の患者に投与を継続した。貧血の進行による脱落は 1 例のみであった。

【考察】

epoetin- κ から roxadustat 錠により Hb 値の上昇、鉄代謝及び脂質代謝の有意な変化が見られ、腎性貧血への有効性が示唆された。